

専門用語のコミュニケーション

田中牧郎（明治大学）

1. 専門用語を分かりやすく伝える必要性
2. 国立国語研究所の言い換え提案
3. 専門用語のコミュニケーションを国語施策で扱うとしたら

1. 専門用語を分かりやすく伝える必要性

緊急時・非常時のコミュニケーション不全

- 2020～21年のコロナ禍

クラスター

濃厚接触者

ブースター接種

ブレークスルー感染

マイクロ飛沫感染/エアロゾル
感染/空気感染

抗原検査/抗体検査

特別定額給付金/持続化給付金

- 2011年の原子力発電所事故

セシウム

半減期

フェイルセーフ

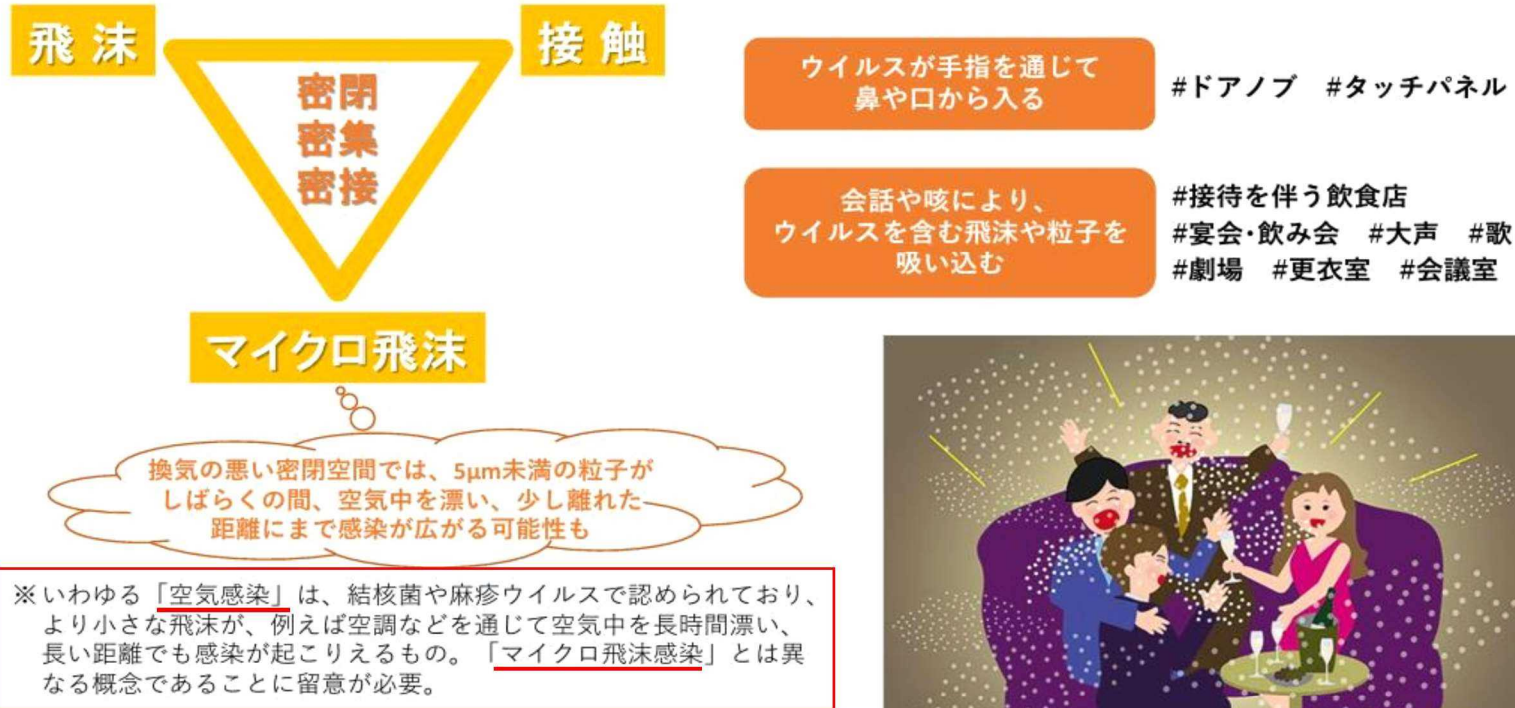
線量限度

シーベルト/ベクレル

放射線/放射能

計画的避難区域/緊急時避難
準備区域

新型コロナウイルス感染症はこうした経路で広がっています



- ⚠ 3つの**密**を避けましょう！ ①換気の悪い**密閉**空間、②多数が集まる**密集**場所、③間近で会話や発声をする**密接**場面
- ⚠ 手洗い・手指消毒、マスクの着用、2m(最低1m)の身体的距離が大事！適度な**換気**も重要です！

厚生労働省「新型コロナウイルス感染症はこうした経路で広がっています」

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000657104.pdf>

白書における難解な用語の現状

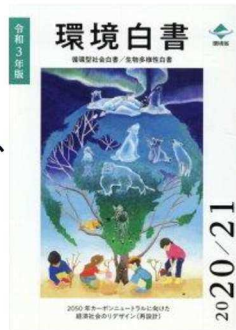
環境省は、2020年6月12日、令和2年版環境白書の閣議決定日に「気候危機」を宣言し、9月3日に小泉進次郎環境大臣を議長としたオンライン・**プラットフォーム**閣僚級会合を開催しました。そして、我が国は、10月26日には菅義偉内閣総理大臣が第203回国会の所信表明演説において、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち**カーボンニュートラル**を目指すことを宣言しました。それに伴い、12月25日には「2050年カーボンニュートラルに伴う**グリーン成長戦略**」の策定とともに、国・地方脱炭素実現会議が開催され、2050年**脱炭素社会**実現に向けた**ロードマップ**作り等の検討が始まりました。

また、地方自治体も2019年9月以降、2050年に温室効果ガス又はCO2の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自ら又は地方自治体として公表する「**ゼロカーボンシティ**」が増え続けています。

このように**バックキャスティング**型のような従来の延長線上にない取組を行うことは、政府や地方自治体だけに限りません。**私たち自身が**、大量生産・大量消費・大量廃棄のライフスタイルを変えることが必要です。**私たちが**変わることにより、気候変動を始めとする環境や社会、経済の問題を緩和ないし解決に導き、**持続可能**なより良い未来の選択につながるのではないのでしょうか。本白書の第1部では、経済社会の**リデザイン**（再設計）、持続可能で強靱な地域、未来につながるライフスタイルについて考えます。

（令和3年版『環境白書』p.3）

「私たち自身が」「私たちが」の言葉から、この文章が国民へのメッセージであることが読み取れる。



脱炭素政策に関する難解な用語の例 —令和3年版『環境白書』より—

(1) 脱炭素政策における**重要概念を表す専門用語**

脱炭素、脱炭素社会、カーボンニュートラル、ゼロカーボン、カーボンプライシング、脱炭素ドミノ、温室効果ガス、排出ゼロ、ゼロエミッション、ネットゼロ、持続可能性、サステナビリティ、バイオマス、コージェネレーション、ベースメタル

(2) 脱炭素政策に用いられる**行政用語**

プラットフォーム、バックカスティング、リデザイン、サーキュラーエコノミー、循環経済、リニアエコノミー

(3) 脱炭素政策の説明に用いられた**外来語形容動詞**

レジリエントな地域作り、エシカルな「地域株式会社」、サステナブルなライフスタイル、グリーンな経済システム、CO₂フリーなエネルギー源

公用文の分類

表) 公用文の分類例

大 別	具体例	想定される読み手	手段・媒体の例
法 令	法律、政令、省令、規則	専門的な知識がある人	官報
告示・通知等	告示・訓令 通達・通知 公告・公示	専門的な知識がある人	官報 府省庁が発する文書
記録・公開資料等	議事録・会見録 統計資料 報道発表資料 白書	ある程度の専門的な知識がある人	専門的な刊行物 府省庁による冊子 府省庁ウェブサイト
解説・広報等	法令・政策等の解説 広報 案内 Q&A 質問等への回答	専門的な知識を特に持たない人	広報誌 パンフレット 府省庁ウェブサイト 同SNSアカウント

文化審議会国語分科会（2021）「新しい「公用文作成の要領」に向けて（報告）」p.5
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/92895101_01.pdf

専門用語の分かりやすい解説 (「公用文の分類例」の「解説・広報等」に相当する媒体)

カーボンニュートラルとは

温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味します

2020年10月、第203回臨時国会の所信表明演説において、菅義偉内閣総理大臣は「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

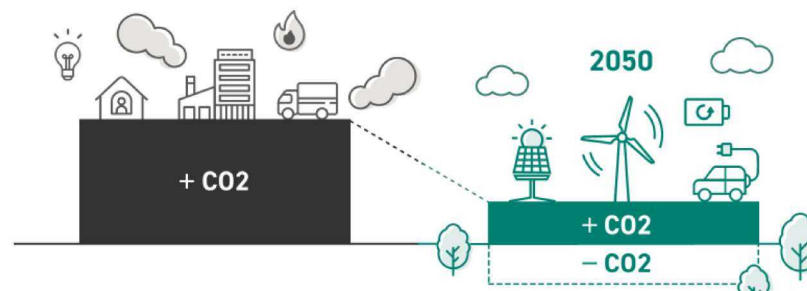
「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減・吸収作用の保全及び強化をする必要があります。

環境省「脱炭素ポータル」
(https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/)

このような解説ページがあるのは、専門用語のうち、ごく一部の用語にとどまる。

行政用語や外来語形容動詞については、解説は全くない。



2. 国立国語研究所の言い換え提案

「外来語」言い換え提案（2003～2006年）

「病院の言葉」を分かりやすくする提案（2009年）

「『外来語』 言い換え提案」のねらい

国立国語研究所の調査では、国の省庁の行政白書や新聞など、公共性の高い文章に使われている外来語には、一般の人々にとってなじみの薄い分かりにくいものが多いことが分かっています。このような、外来語の使用状況を見ると、読み手の分かりやすさに対する配慮よりも、書き手の使いやすさを優先しているように見えます。

「外来語」言い換え提案の目的は、このような**公共性の高い場面における外来語使用の現状をふまえ、分かりにくい外来語を分かりやすくするための方策を、言葉遣いの工夫として提示することにあります。**提案の本体では、対象とした個々の外来語に対して、どのような言い換え語を当てるのが最も適切であるのか、また、外来語に説明を施すとしたらどのような表現を選べばよいのか、その目安・よりどころを具体的に示しています。

外来語には日本語をより豊かにするという優れた面もあります。しかし、**むやみに多用すると円滑な伝え合いの障害となる面も出てきます。官公庁、報道機関など公共性の高い組織ではそうした事態を招かないよう、それぞれの指針に基づいて、言い換えや注釈など受け手の理解を助ける工夫をすることが大切です。本提案は、そのための基本的な考え方と基礎資料を提供するものです。**

「『外来語』 言い換え提案」 の例

理解度 (上段全体、下 段60歳以上)	外来語	言い換え語	意味説明	その他の 言い換え語例
★☆☆☆ ★☆☆☆	<u>アーカイブ</u>	保存記録 記録保存館	個人や組織が作成した記録や資料を、 組織的に収集し保存したもの。また、 その施設や機関。	記録 資料 史料 公文書館 文書館 資料館 史料館
★☆☆☆ ★☆☆☆	<u>アイデンティ ティー</u>	独自性 自己認識	他者とは違う独自の性質。また、自 分を他者とは違うものとする明確 な意識。	自己同一性 帰属意識
★★★☆☆ ★★☆☆☆	<u>アイドリング ストップ</u>	停車時エンジン 停止	駐停車の間、車のエンジンを止める こと	
★☆☆☆ ★☆☆☆	<u>アウトソーシ ング</u>	外部委託	業務の一部を外部に委託すること	外注 外部調達
★☆☆☆ ★☆☆☆	<u>アカウンタビ リティー</u>	説明責任	行政や企業などが、社会に対して、 事業に関する情報をいつでも開示し、 説明できるようにしている責任	

全部で176語について提案

シミュレーション

理解度 全体 ★★★★★ 60歳以上 ★★☆☆☆

言い換え語 模擬実験

用例

模 擬 実 験

洪水災害は昨年9月の東海豪雨と庄内川のはんらんを想定したシミュレーションをもとに算出される最大被害を基準にすることを決めた。

意味説明 計算や模擬装置などにより、起こり得る状況を様々に想定して行う実験

手引き

- ・ 計算や模擬装置を用いることに着眼して「模擬実験」と言い換えるのが分かりやすいが、文脈によっては、状況を想定することに着眼して「想定実験」と言い換える方が分かりやすい場合もある。
- ・ 指し示す内容が実験とは言いにくい場合は、「模擬行動」「模擬訓練」など、「模擬○○」「想定○○」の、「○○」の部分を工夫して言い換えるとよい。
- ・ 動詞用法で、「模擬実験する」「想定実験する」などの四字熟語が使いにくいと思われる場合は、「模擬実験を行う」「想定実験を行う」「模擬的に実験する」「想定して実験する」などの言い方にするのもよい。
- ・ 定着に向かっている語だと思われ、「シミュレーション」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。特にコンピューターを使った計算による実験を指して用いられる場合は、「シミュレーション」を用い、分かりにくい向きに対しては、説明を付ける方法も考えられる。
- ・ ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。

その他の言い換え語例 想定実験 模擬行動 模擬訓練

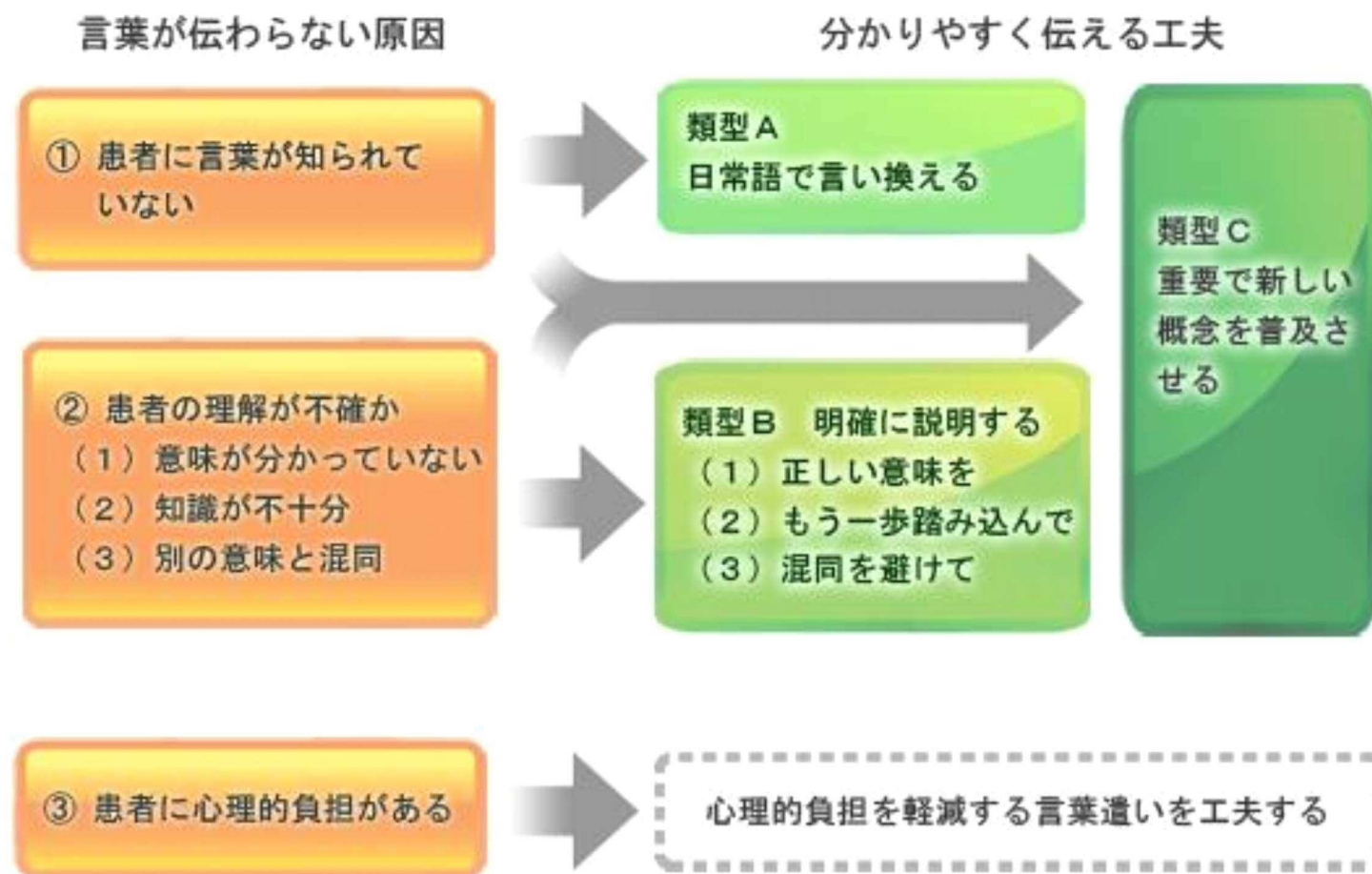
複合語例 シミュレーション実験 = 模擬実験 想定実験

外来語を言い換えたり説明したりする際に 分かりやすくするための留意事項

- (1) 語による理解度の違いに配慮を
- (2) 世代による理解度の違いに配慮を
- (3) 言い換え語は外来語の原語に対するものではないことに
注意を
- (4) 場面や文脈により言い換え語を使い分ける工夫を
- (5) 専門的な概念を伝える場合は説明を付け加える配慮を
- (6) 現代社会にとって大切な概念の定着に役立つ工夫を

https://www2.ninjal.ac.jp/gairaigo/Teian1_4/tebiki.html

「病院の言葉」を分かりやすくする提案



(<https://www2.ninjal.ac.jp/byoin/teian/ruikei/ruikei4/>)

各類型の事例として提案した語（計57語）

類型A 日常語で言い換える

1.イレウス 2.エビデンス 3.寛解 4.誤嚥 5.重篤 6.浸潤
7.生検 8.せん妄 9.耐性 10.予後 11.ADL 12.C
OPD 13.MRSA

類型B 明確に説明する

B－（１） 正しい意味を

14.インスリン 15.ウイルス 16.炎症 17.介護老人保健施設 18.潰瘍
19.グループホーム 20.膠原病 21.腫瘍 22.腫瘍マーカー 23.腎不全
24.ステロイド 25.対症療法 26.頓服 27.敗血症 28.メタボリックシンド
ローム

B－（２） もう一步踏み込んで

29.悪性腫瘍 30.うつ血 31.うつ病 32.黄だん 33.化学療法 34.肝
硬変 35.既往歴 36.抗体 37.ぜん息 38.尊厳死 39.治験 40.糖
尿病 41.動脈硬化 42.熱中症 43.脳死 44.副作用 45.ポリープ

B－（３） 混同を避けて

46.合併症 47.ショック 48.貧血

類型C 重要で新しい概念の普及を図る

<信頼と安心の医療>

49.インフォームドコンセント 50.セカ
ンドオピニオン 51.ガイドライン 52.ク
リニカルパス

<ふだんの生活を大事にする医 療>

53.QOL 54.緩和ケア 55.プライ
マリーケア

<新しい医療機械>

56.MRI 57.PET

「『病院の言葉』を分かりやすくする提案」の例

寛解（類型A）

まずこれだけは

症状が落ち着いて安定した状態

少し詳しく

「症状が一時的に軽くなったり、消えたりした状態です。このまま治る可能性もあります。場合によっては再発するかもしれません」

時間をかけてじっくりと

「病気の症状が一時的に軽くなったり、消えたりした状態です。このまま再発しないで、完全に治る可能性もあります。しかし、場合によっては再発する可能性もまだあるかもしれません。再発しないようによく様子を見ていただく必要があります。ですから、定期的に検査を受けたり、薬を飲んだりしてください」

こんな誤解がある

病気が完全に治った状態だと誤解されやすい。一時的に症状が軽くなったり消えたりしているのであって、治ったわけではないことを、伝える必要がある。

言葉遣いのポイント

1. 一般の人はふだん見聞きしない言葉であり（認知率13.9%）、耳で聞いても漢字が思い浮かばず、漢字を見ても意味が推定できない難しい言葉である。患者に対して不用意に「寛解」という言葉を使わないようにしたい。
2. ネフローゼ症候群（腎臓の働きが悪くなり血液中のタンパク質が尿として出てしまう病気）やがんなど長期間の治療に取組んでいて、患者で、病状や治療について理解が深まっていく場合、時間がかかるといってもいい。また、完全に治癒（ちゆ）することを表す、「治癒（ちゆ）」という言葉と対比して説明したい。

（後略）

3. 専門用語のコミュニケーションを国語施策で扱うとしたら

専門用語のコミュニケーションについて 専門分野で検討された例

「痴呆」に替わる用語に関する検討会報告書（2004年、厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/12/s1224-17.html>

「痴呆」を「認知症」に変えることを提言

遺伝用語改訂について（2017年、日本遺伝学会）

https://gsj3.org/wordpress_v2/wp-content/themes/gsj3/assets/docs/pdf/revisionterm_20170911.pdf

「優性」「劣性」を「顕性」「潜性」に変えることなどを提言

法廷用語の日常語化に関するPT最終報告書（2007年、日本弁護士連合会）

https://www.nichibenren.or.jp/ja/citizen_judge/program/nichijyougoka.html

裁判員裁判で使われる重要な法廷用語（「確定的故意」「未必の故意」など）について、裁判員向けの分かりやすい説明と、法律家向けの誤解なく伝えるための留意点を示す

国語施策における語彙の扱い

漢字表の背後に隠れた語彙

- 「常用漢字表」の字種選定・音訓選定では、語彙頻度調査の結果を参照している。
- 「常用漢字表」には、字種・音訓ごとに、語例を挙げている。
- 「しょうがい」の表記のために「碍」を漢字表に入れるか否かの議論においては、表記の問題というより、用語の問題だという認識に至った。

「国際社会に対応する日本語の在り方」（国語審議会答申、2000年）

外来語を、そのまま使う語、言い換えた方が分かりやすい語、注釈を付す語の三つに分類している。これが、国立国語研究所の「外来語」言い換え提案に発展した。

「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）」（2018年）、「新しい「公用文作成の要領」に向けて（報告）」（2021年）

国立国語研究所の言い換え提案に言及する形で、外来語や専門用語などの語彙の運用について、コミュニケーションの観点から、考え方を示している。

〈参考〉 関根健一（2019）「語彙はなぜ国語政策に取り上げられないのか」（田中牧郎編『シリーズ〈日本語の語彙〉7現代の語彙』朝倉書店）

国語施策で専門用語をどう扱うか

1. 漢字表のように、網羅的な語彙表を提示することは、困難だし、必要性も高くないだろう。
2. 専門家から非専門家への伝達が円滑に進むコミュニケーション、非専門家が専門知の恩恵を受けた判断ができるコミュニケーション、などの実現を目指す施策があるとよいのではないか。
3. 医療、エネルギー、環境、防災、法律など、国民生活にとって特に必要性の高い分野を例に検討結果を示せば、効果的ではないか。
4. 各専門家集団が、専門用語のコミュニケーションの指針を策定する際に参考になる、基本的な考え方を、いくつかの具体例によって示すのが、国語施策の役割ではないか。
5. 専門用語が属する各専門分野の専門家を交えた検討が必要。
6. 専門用語の調査・分析には、日本語研究者の協力が必要。